

正野重方教授の業績と評価について

本誌8月号に J. M. Lewis 氏による「正野重方—The Uncelebrated Teacher—」が掲載されている。そこには、正野教授の経歴や学問的業績、さらには東京大学の気象学教授として彼が果たした指導力の影響などが、その身近にいた多くの人々の証言をも交えてこと細かに語られている。現在20～30歳代の気象学会員にとって直接には知ることの無いであろう当時のエピソードの数々が、Lewis 氏の努力により、正野教授の没後二十数年経った今日、あらためてこのような形で紹介されたことは、正野教授の薫陶を受けた者の一人として大変嬉しく思う。アメリカ人でありながら、このように、日本の気象界に関心を寄せてくれた Lewis 氏に感謝の意を表したい。

しかしながら、残念なことに、この Lewis 氏の論評の中に、その論旨にとって極めて重要と思われる事項がひとつ欠落している。それは、正野重方教授が1961年にアメリカ気象学会の名誉会員に選ばれたという事実である。

アメリカ気象学会誌 (Bulletin, Vol. 42, No. 6,

1961) の記事には「東京大学地球物理学教室の正野重方教授は、気象学における卓越した貢献と国際協力の発展に尽した功績により、アメリカ気象学会の名誉会員 (Honorary Member) に選出された。」とある。この文章は、1960年の国際数値予報東京シンポジウムに対する評価のみならず、その背景となる正野教授自身の大気擾乱の研究がアメリカでも(間接的にせよ)知られていたことを意味している。

現在、アメリカ気象学会の名誉会員は50名以上を数えているが、正野教授が選ばれた1961年には僅か13名であり、そのメンバーは、Sir Edward Appleton をはじめとする錚々たる顔ぶればかりである。

その意味で私は、Lewis 氏が正野教授を “uncelebrated” と表現したことにはいささかの遺憾の念を覚え、アメリカ気象学会名誉会員のことを Lewis 氏に書き送ったところ、折り返し同氏から次のような「補遺」が送られてきた。「天気」編集委員会のご判断により、以下にその和訳を掲載して頂く。

(京都大学 廣田 勇)

「正野重方—The Uncelebrated Teacher—」の補足

廣田教授の示唆に従い、The Uncelebrated Teacher という副題を選んだことについて、特に正野重方がアメリカ気象学会の名誉会員に選ばれているという見地から、その経緯を明らかにしたい。1961年に正野が名誉会員に推挙される直前には、Appleton (Scotland), Bergeron (England), J. Bjerknes (Norway), Brunt (England), Gold (England), Klopsteg (U. S. A.), Kolmogorov (U. S. S. R.), Normand (England), Palmén (Finland), Simpson (England), Solberg (Norway), Taylor (England), von Kármán (U. S. A.) らが名誉会員に名を連ねていた。疑いもなく、この名誉会員リストには20世紀の気象学のエリート達が含まれている。

この The Uncelebrated Teacher という副題は、1990～1991年にかけて私がアメリカとヨーロッパにおいてインタビューによって史料を収集している時に思い付いたものである。第2次大戦後に活躍した著名な

気象学者達から、聞き書き史料を収集する過程で、これらヨーロッパの科学者の多くが正野のことについてほとんど知らないことが明白となった。第2次大戦後の気象学の歴史を再構築し、いくぶん控え目で、もの静かであるが、しかし自信に満ちていた正野の個性に関する資料を照合させてゆくにしたがって、残念ではあるが、他の人々が彼(正野)の業績について知らないのも仕方がないと思えた。確かに彼はもっと国際的な評価を享受すべきであった。しかし彼は、東京大学における気象力学研究グループから輩出した優れた研究者を育てたという役割を、もっとも誇りに思っていると、私は確信している。

(NOAA/ERL, NSSL John. M. Lewis)

【編集委員会注】

8月号に掲載した解説「正野重方—The Uncelebrated Teacher—」について、京都大学の廣田教授より

Lewis 氏あてにコメントが送られ、これに対する回答として、Lewis 氏から解説の補足が編集委員会に寄せられました。

これらの経緯を説明した廣田教授の文章と、Lewis 氏の補足を掲載します。なお、Lewis 氏の補足の訳については、編集委員会の藤谷が行いました。

日本気象学会および関連学会行事予定

行事名	開催年月日	主催団体等	場所	備考
国際 HEIFE シンポジウム	1993年11月8日	京都大学防災研究所, 中国蘭州高原大気物理研究所	京大会館 (京都市)	京大防災研究所 光田 寧
1993年度東大海洋研大榎シンポジウム ヤマセ研究の過去・現在・未来	1993年11月16日 ～17日	東京大学海洋研究所大榎臨海研究センター	東京大学海洋研究所大榎臨海研究センター (岩手県大槌町)	東北大学理学部大気海洋センター 川村 宏 Tel. 022-222-1800
平成5年度気象研究所研究発表会	1993年11月26日	気象研究所	気象研究所講堂 (つくば市)	気象研究所企画室 Tel. 0298-51-7111
第2回風に関する国際ワークショップ	1993年12月13日 ～15日	WMO, EUMETSAT NOAA, 気象庁	気象庁第1会議室 (千代田区)	
第40回風に関するシンポジウム	1993年12月21日	日本農業気象学会, 日本気象学会 他	農林水産省 農業環境技術研究所講堂 (つくば市)	熱帯農業研究センター 真木 太一 Tel. 0298-38-6355
月例会 レーダー気象	1994年1月21日	気象庁	気象庁 (千代田区)	気象研究所 台風研究部 榑原 均
温室効果気体に関する国際会議	1994年3月7日 ～10日	東北大学	仙台国際会議場 (仙台市)	東北大学理学部 中澤 高清 Tel. 022-222-1800
日本気象学会 1994年度春季大会	1994年5月24日 ～26日	日本気象学会	御茶の水スクエア (千代田区) (元主婦の友会館)	



第8回「大学と科学」公開シンポジウム

『地球環境変動の科学—II—かけがえのない地球を守るために—』

日時 平成6年1月24日(月)～1月25日(火)
会場 日経ホール(東京都千代田区大手町1-9-5)
主催 第8回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会

聴講費 無料です。聴講希望者が多数の場合には抽選となります。

聴講申込 シンポジウム名『地球環境』・氏名・住所

(自宅か勤務先を明記)・職業(勤務先における職務を明記)をハガキにご記入の上、下記宛にお申込みください。

申込先 〒102 千代田区富士見2-3-1 信幸ビル
クパプロ内「地球環境変動の科学」事務局
TEL 03-3238-1689 FAX 03-3238-1837

申込締切 平成6年1月14日(金)